

入院患者の転倒・転落損傷率

算式

入院中の患者に発生した損傷レベル4以上の転倒・転落件数/入院患者延べ数×1000
(‰：単位はパーミル)

対象

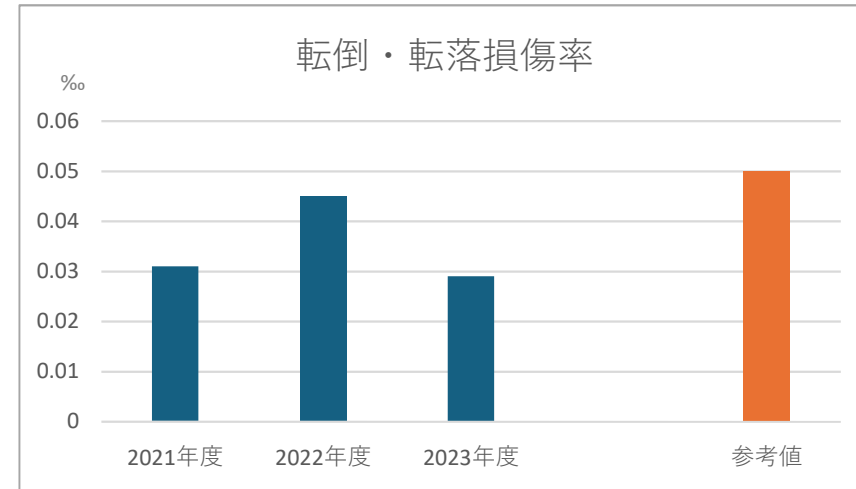
全入院患者（全診療科・全病棟）

考察

転倒・転落対策を実施していても、転倒・転落を100%防ぐことは困難である。しかし、積極的に予防的策を講じて、障害を最小限にする取り組みは患者のQOL維持の観点からも非常に重要である。当院の転倒・転落損傷率は、低めで推移している。転倒・転落発生事例、損傷レベル4以上の事例を分析することで、転倒・転落損傷リスクの高い患者への対策が有効に行えていると評価している。

計画

今後も転倒・転落事例、
損傷レベル4以上の事例分析を行い、
他職種が連携して障害を最小限に抑える
対策を実施する。
継続的なモニタリングにより、
対策の評価を行う。



参考値：日本病院会QIプロジェクト 2022年度「入院患者の転倒・転落損傷率」平均値

